

ティーチング・ポートフォリオ

教員の職・氏名 : 准教授 山脇 寛子

所属学科等 : 保育学科

作成日 : 2022年3月24日

目 次

- 1 教育の責任
- 2 教育の理念
- 3 教育の方法
 - (1) 教育の目標 ア 教師としての目標 イ 学生に求めること
 - (2) 教育実践
- 4 教育の成果
 - (1) 学生による授業評価アンケートから
 - (2) 学修成果把握アンケートから
 - (3) 成績の分布状況と出席率
- 5 改善の努力と今後の目標
 - (1) 「学びの成果」に関して（遠隔授業含む）
 - (2) 全科目の内容の見直し
 - (3) FD研修への参加
- 6 添付資料（エビデンス）

1 教育の責任

私は本学の教員として平成26年4月に着任し、保育学科の学生を対象に心理学系科目を中心に担当している。令和3年度の担当科目は以下の通りである。

授業科目名(単位)	学期 対象学生	必・選	カリキュラムでの位置づけ	受講者数
教育心理学(2)	前期 保育学科1年	必	専門科目、幼保必修	保33名
発達心理学I(2)	前期 保育学科1年	選	専門科目、保資必修	保33名
保育実践演習I(1)	前期 保育学科1年	必	専門科目、保資必修	保8名
教育相談(1)	後期 保育学科1年	選	専門科目、幼保必修	保32名
児童文化I(1)	後期 保育学科1年	必	専門科目、幼保必修	保8名
幼児理解と援助(2)	前期 保育学科2年	選	専門科目 幼免必修	保45名
幼児と人間関係(1)	前期 保育学科2年	選	専門科目、幼保必修	保44名
保育実践演習II(1)	前期 保育学科2年	必	専門科目、保資必修	保12名
臨床心理学(2)	後期 保育学科2年	選	専門科目、保資選択	保7名

保育内容「人間関係」の指導法（2）	後期 保育学科 2年	選	専門科目、幼保必修	保43名
子ども家庭支援の心理学（2）	後期 保育学科 2年	選	専門科目、幼保必修	保43名
発達心理学Ⅱ（1）	後期 保育学科 2年	選	専門科目、保資必修	保43名
児童文化Ⅱ（1）	後期 保育学科 2年	必	専門科目、幼保必修	保12名

これらの科目のシラバスは本学所定の形式によって作成し、各学年学科の冊子「授業計画」として全学生に配付している。【添付資料A】

私は上記の授業以外に、平成26年4月より学生相談の発令を受けており、本学における学生のメンタルケアや心理的サポーターとして、学生が安心して学園生活を送り、勉学に励むことが出来るよう努めている。

2 教育の理念

本学の教育理念は、創設者である河野タカが定めた「温雅而尚礼節（温雅にして礼節をたつとぶ）」である。教職員自らが率先して理念を体得・実践することが肝要であり、平素から教職員や学生が自他を尊重し、心穏やかに礼儀正しく接することを心がけている。当然、授業においてもこの姿勢が大切であり、始業時・就業時のあいさつなど教員、学生共々「温雅而尚礼節」を踏まえた授業となるよう努めている。

学科レベルでは、保育学科は保育者（幼稚園教諭、保育士）の育成を目的とし、ディプロマ・ポリシーとして

- ① 社会人としての幅広い教養を身に付けている。
- ② 保育に関する専門的な知識を身に付けている。
- ③ 保育に関する専門的な技能を身に付けている。
- ④ 状況に応じて正しい判断を行い、多様な人々と協働できる。
- ⑤ 自分と相手の思いを大切にし、地域社会の発展に貢献できる。

を掲げている。私は主として②、③、⑤に係る学生の資質・能力の向上を目的として授業を進めており、社会人として、そして保育者として幅広い教養を身に付け、主体的に判断し、地域社会に貢献できる人材を育成することが本学教育における私の使命であることを自覚している。

3 教育の方法

（1）教育の目標

ア 教師としての目標

- ① 学生に「授業」への興味・関心をもたせる教材をつくること
 - ② 学生に「心」について興味・関心をもたせる教材をつくること
 - ③ 学生に「他者(特に子ども)の心」に係る基礎的な知識を修得させる教材をつくること
 - ④ 学生に③の基礎的な知識をもとに、他者の心のみでなく、それを理解しようとしている自分自身についての理解を深めるような授業を構成すること
- ※ 授業を通じて育てたい態度、資質、能力については「学修成果把握アンケート」に10

項目設定している。【添付資料E】

イ 学生に求めること

- ① 全15回の講義に出席すること
- ② 始業時・終業時のあいさつを励行し、「温雅而尚礼節」の理念に即して講義を受けること
- ③ 授業プリントを毎時間完成させること
- ④ 講義内容を「聞き、考え、表現する」ことを常に意識すること
- ⑤ 「多様性への理解」を深めるため、自分自身の考え方や表現を客観的に見つめ直すこと
- ⑥ 他者と意見交換し、自己の主張を検討すること

(2) 教育実践

前項の目標を達成するために、授業において以下の取組を実践している

- ① パワーポイントによるビジュアルな教材を提供する【添付資料B】
 - ・ 全てパワーポイントを使用（1講義あたり35シート程度）
 - ・ 板書の時間を短縮して、授業時間をフルに活用する
 - ・ アニメーション機能により画面に動きをもたせる
 - ・ 写真、イラスト等を活用しわかりやすい画面を作る
- ② テキストは使わず、①に合わせてサブノート形式のA3版プリントを作成し、毎時間1枚配付する【添付資料C】
- ③ 臨床現場でのカウンセリング事例（下記参考）を講義内で取り上げ、「もし自分が対応するとなったら…」と現実的に考える機会を多く設ける
 - ・ 子ども対応、保護者対応、緊急時対応（事件・事故、災害、対象喪失）、各種疾患（身体的、精神的）を抱えるケース、関係機関（医療、児相、療育、警察など）との連携が必要なケース
- ④ 様々なものの「多様さ」に気付けるよう、他者の考えや意見を聞く機会を多く設ける
 - ・ 子ども観や保育観をはじめ、価値観や物事の許容範囲など人それぞれの感覚的なものを心理測定尺度等を用いて自覚しシェアリングする

4 教育の成果

(1) 学生による授業評価アンケートから【添付資料D】

ア 教育心理学

「総合的に満足する授業であった」については平均値が3.88/4.00である。他項目も全て平均評価が3.8以上と高い評価を得ることが出来た。毎回授業、テーマに沿ったニュースや個人的な経験談を内容に含めつつ、「学生に語り掛ける」「問いかける」という授業スタイルを意識したことが良い方向へ作用したのかもしれない。また、学生からの質問への回答を口頭のみでなく別紙を作成し配布したり、学生の反応を見て説明の加減をするなど、1年生の様子を観察しながら丁寧に授業を行うことを一層意識した結果、このような評価に繋がったと考える。

イ 発達心理学 I

「総合的に満足する授業であった」については平均値が3.88/4.00である。人の一

生について「生涯発達」という視点で捉えることから、講義内容が乳幼児の発達に限らず成人期～老年期の発達にまで及ぶのがこの科目の特徴でもある。今年度は幅広い年齢層の学生が在籍していることもあり、乳幼児期～青年期以降の発達段階についても積極的に質問が出た。

ウ 保育実践演習Ⅰ（保育内容研究コース）

「総合的に満足する授業であった」については平均値が 3.88/4.00 である。昨年度のコース活動でスタートにかなり時間がかかったのを目にしていた2年生が、テンポよく活動内容をまとめていったおかげで「1年生の良い手本」となってくれたため、活動への満足度が高くなったと考える。例年になく、1年生と2年生との間に互いを尊重し協力しながら活動する姿がよく見受けられ、この科目の「総合的に満足する授業であった」という評価は2年生への評価と考えている。

エ 教育相談

「総合的に満足する授業であった」については平均値が 3.93/4.00 である。昨年の反省をふまえ、ワークの形を工夫したり実体験をもとにした事例を加えて講義を行うことで学生の関心を高めたり、誰しもが発言しやすいような雰囲気作りの中での意見交換を意識したことが結果に繋がったのかもしれない。

オ 児童文化Ⅰ

「総合的に満足する授業であった」については平均値が 3.88/4.00 である。前期に引き続き、2年生がリーダーシップを発揮しつつも1年生の意見も丁寧に聴き取るということを行っていた結果である。前期以上に両学年の交流が非常にスムーズで良い雰囲気の中での活動が進み、創作発表会での発表もトラブルがありつつも全員で対処し無事成功する事が出来た。

カ 幼児理解と援助（子どもの理解と援助）

「総合的に満足する授業であった」については平均値が 3.72/4.00 である。昨年度の反省を活かし、「学生自身が考え、それを表出する」という機会を可能な限り盛り込むことを意識して講義を行った。また、講義の内容が現場でどのような所に生きてくるのかということをよく考えさせたり意識させるよう工夫した。

キ 幼児と人間関係

「総合的に満足する授業であった」については平均値が 3.71/4.00 である。実習のタイミングにあわせて講義の内容を入れ替えたり、コロナ感染対策として必要な対処によって皮肉にも子ども達のコミュニケーション能力の発達を促すことがこれまでになく難しくなっていることなど、これから現場に出ていくことを意識して講義の内容を工夫した。

ク 保育実践演習Ⅱ（保育内容研究コース）

「総合的に満足する授業であった」については平均値が 3.75/4.00 である。昨年度、同コースに在籍していた学生の大半が残っており、昨年度の反省を踏まえて積極的かつ自主的にコース活動を引っ張っていった。例年になく、1年生と2年生との間に互いを尊重し協力しながら活動する姿がよく見受けられた。この科目の「総合的に満足する授業であった」という評価は2年生への評価

ケ 臨床心理学

「総合的に満足する授業であった」については平均値が 4.00/4.00 である。昨年度は不開講であったが今年度は 7 名が履修し、いずれも元から心理学や精神疾患等に興味のある学生であった。資格必修の講義とは違って選択科目であるため、精神科臨床場面や実際の精神疾患患者の状態像なども講義内容に加え、他の科目に比べて新鮮味があったのではないかと考える。

コ 保育内容「人間関係」の指導法

「総合的に満足する授業であった」については平均値が 3.88/4.00 である。具体的な事例を加えながら、乳幼児に限らず大人の間関係の難しさ等も講義に加え、幼い頃からのコミュニケーションの大切さについて丁寧に説明することを意識して講義を行った。

サ 子ども家庭支援の心理学

「総合的に満足する授業であった」については平均値が 3.93/4.00 である。昨年度の反省を活かし、講義内容の変更を加えていった。様々な統計データや時事問題も加え、子育て家庭を支えるために必要な知識や見方を分かりやすく解説することを意識した。

シ 発達心理学Ⅱ

「総合的に満足する授業であった」については平均値が 3.90/4.00 である。コロナの感染状況を見つつ、落ち着いた時期に体験型の学習を入れる等工夫した。特に実習前には実習への意欲が高まるような内容を入れ、スムーズに実習に臨めるよう意識した。

ス 児童文化Ⅱ

「総合的に満足する授業であった」については平均値が 3.85/4.00 である。1年生との交流も非常に活発で、互いに尊重し合う姿が前期以上に見られた。創作発表会当日には思いがけないトラブルが発生したものの自分達で対処することができ、成長した姿を見ることが出来た。

(2) 学修成果把握アンケートから【添付資料 E】

ア 教育心理学

授業を受けたことにより知識・理解・技能が「向上した」と回答した学生が 62.5%、「やや向上した」が 37.5%であった。記憶や学習、認知ややる気についてなど、学生にとって身近な事柄を多く含み、興味もわき易い講義内容である。講義内容を学生の中に印象付けやすい科目であることからアンケート回答時に講義内容を回顧しやすく、この評価に繋がった可能性もある。

イ 発達心理学Ⅰ

授業を受けたことにより知識・理解・技能が「向上した」と回答した学生が 66.7%、「やや向上した」が 33.3%であった。講義内容は乳幼児の発達に限らず成人期～老年期の発達にまで及ぶ科目であり、自分の将来や自分の家族の姿と照らし合わせながら聴く部分もあり、理解がしやすいという要因が考えられる。

ウ 保育実践演習Ⅰ（保育内容研究コース）

アンケート未実施。

エ 教育相談

昨年度の反省をいかして講義内容を多少変更したこともあってか、授業を受けたこと

により知識・理解・技能が「向上した」と回答した学生が昨年度に比べて 10%アップの 89%となり、「やや向上した」が 11%であった。講義中の質問等も活発で、学生自身は知識や理解を深めることが出来たという感覚があるようだ。

オ 児童文化Ⅰ（保育内容研究コース）

アンケート未実施。

カ 幼児理解と援助（子どもの理解と援助）

授業を受けたことにより知識・理解・技能が「向上した」と回答した学生が昨年度に比べて 10%アップの 75.6%、「やや向上した」が 24.4%であった。しかし、学生のこの評価と試験問題への回答を照らし合わせると、本当に理解出来ているか不安を覚えるものもある。

キ 幼児と人間関係

授業を受けたことにより知識・理解・技能が「向上した」と回答した学生が昨年度に比べて約 15%アップの 75.7%、「やや向上した」が 21.6%であった。昨年同様、グループワークの実施がなかなか難しかったが、可能な範囲で活発な意見交換や体験形式の内容を取り入れたことが評価に繋がった可能性がある。

ク 保育実践演習Ⅱ（保育内容研究コース）

アンケート未実施。

ケ 臨床心理学

授業を受けたことにより知識・理解・技能が「向上した」と回答した学生は 100%、つまり受講者全員という結果となった。他の科目ではなかなか触れないような内容を含む上、受講者の人数が少なくコミュニケーションがとりやすい環境であったことからこのような結果となったと考える。

コ 保育内容「人間関係」の指導法

授業を受けたことにより知識・理解・技能が「向上した」と回答した学生が 75%、「やや向上した」が 25%であった。事例を用いた講義を多く実施し、現場のイメージが膨らむような内容を心がけた結果、学生の理解度と上手くマッチしたと考える。

サ 子ども家庭支援の心理学

授業を受けたことにより知識・理解・技能が「向上した」と回答した学生が 75%、「やや向上した」が 25%であった。各種発達段階にある人を支える家族の役割や実情、そして人の発達段階の復習も兼ねた内容であったためか、学生の理解度が高かった。

シ 発達心理学Ⅱ

授業を受けたことにより知識・理解・技能が「向上した」と回答した学生が 75%、「やや向上した」が 25%であった。子どもの視野を体験したり設定保育の再現など、学生主体で学ぶ内容が多く、実施時期も実習に合わせて変更したことが理解度の高さに繋がったと考える。

ス 児童文化Ⅱ（保育内容研究コース）

アンケート未実施。

(3) 成績の分布状況と出席率

	秀	優	良	可	不可	科目GPA	出席率	皆勤学生数
教育心理学	7	16	8	2	0	2.85	96.9%	23/33
発達心理学 I	10	17	5	1	0	3.09	96.5%	24/33
保育実践演習 I	0	7	0	1	0	2.75	89.6%	7/8
教育相談	9	13	5	4	1	2.78	94.8%	15/32
児童文化 I	7	1	0	0	0	3.88	95.8%	5/8
幼児理解と援助	5	7	13	15	5	1.82	92.0%	14/45
幼児と人間関係	7	5	13	12	7	1.84	93.3%	19/44
保育実践演習 II	0	7	3	2	0	2.42	94.4%	6/12
臨床心理学	2	1	4	0	0	2.71	87.6%	1/7
保育内容「人間関係」の指導法	3	9	13	17	1	1.91	92.9%	18/43
子ども家庭支援の心理学	4	9	20	9	1	2.14	92.1%	14/34
発達心理学 II	1	7	10	24	1	1.60	91.5%	10/34
児童文化 II	11	1	0	0	0	3.92	86.7%	4/12

皆勤である学生は固定化しており、欠席がちな学生の中には欠席 4.5 回（定期試験受験資格を失わないギリギリの欠席回数）を計画的にとる学生も少なくない。欠席による講義内容の未習得は大きな問題であり、次の「5 改善の努力と今後の目標」でも触れるが、体験型の学習を展開していこうとする現状では、補習やレポート課題では換えられない学びが失われたままということになる。

5 改善の努力と今後の目標

(1) 「学びの成果」に関して（遠隔授業含む）

前期の休学期間中に実施した遠隔授業の内容については特に改善の必要を感じている。遠隔授業の準備期間の短さも一因ではあるが、通常の対面授業の内容に近い形での内容構成が出来なかった。今後の新型コロナウイルス感染症の感染状況次第では再度遠隔授業の実施も十分考えられるため、特に講義形式の授業に関してはどのタイミングでも遠隔授業へと切り替えられるよう準備を進めたい。今となっては遅いが、遠隔授業に特化してアンケートをとることも有用だったのではと考えている。今年度も昨年度と同様に実施した2つのアンケート結果から

は、対面授業については学生はある程度の「学びの成果」を感じ取っているようである。しかし、そもそも講義は全15回出席してこそその学修を前提としており、学生の感じている「学びの成果」と、教員側が期待する「学びの成果」との間のギャップが気になる点である。実習時期や進路選択の時期など、その都度学生がおかれている状況を今一度振り返り、講義内容が学ぶに相応しい時期に展開されているか、学生が求める内容や関心を持つような内容をタイムリーに提供できているか見直すことが必要と考える。

(2) 全科目の内容の見直し

今年度で3法令（幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領）の改編や再課程認定に伴う新カリキュラムに対応した科目の見直しを改めて一通り行うことが出来た。昨年度の反省を生かして講義内容の改善に努めた結果、授業評価や学生の理解度の向上に繋がったことが数値としても明確化したことから、今後も継続して講義内容を精査して行きたい。また、これまで同様に、講義内容がいかに実践で活かせるのかや流れのある保育・教育を行うには地道なPDCAプロセスが不可欠であること、成功や失敗、不安や戸惑いが全て貴重な学びの要素であることを常に学生に意識させることを今後も自身の目標としたい。

(3) FD研修への参加

教育活動の改善にFD研修は不可欠であり、今年度は以下のFD研修に参加した。

- 4/1 「2020年度 後期 学修成果把握アンケートの集計結果について」
- 5/12 「新型コロナウイルスの基礎」(SD合同研修)
- 9/8 「2021年度 前期 学修成果把握アンケートについて」
「ICTを活用した教育実践例」(SD研修、附属高等学校との合同研修)
- 10/13 「令和3年度 前期 授業評価アンケートについて」
- 10/13 「令和3年度 前期 教員用授業自己点検アンケートについて(報告)」
- 1/12 「ティーチング・ポートフォリオの作成について」
- 2/16 「GIGA スクール構想が目指すものとは」
「Google classroom を使ったクラウド体験」
- 3/16 「学習成果把握アンケートについて」

今年度はFD研修が非常に充実しており、タイムリーに必要な情報や遠隔授業の導入に伴う新たなスキルを得る事が出来た。参加を通して自身の教育活動を見直すことができ、非常に有意義であった。

6 添付資料（エビデンス）

- A シラバス
- B 授業で使用するパワーポイント画面サンプル（各学年1科目ずつのみ添付）
- C 授業プリントサンプル（各学年1科目ずつのみ添付）
- D 学生による授業評価アンケート集計結果（非公開）
- E 学修成果把握アンケート集計結果（非公開）
- F 試験問題（非公開）（各学年1科目ずつのみ添付）
- ※ Aは冊子「授業計画」として学生に配付している。
D、Eは個別の授業については公開していないが全学の状況はHPに公開している。